

# 麦の穂

題字：かまたみさ

第53号

2015年5月  
特定非営利活動法人

麦の会

TEL&FAX

022-299-1279

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町 17-1

郵便振替口座 02200-8-46178

E-mail : muginokai@k5.dion.ne.jp

http://www.muginokai-koppe.com

目次	総会報告	飯嶋 茂	・・・1p
	奏海の杜の皆さま ありがとうございます	土屋 潤	・・・7p
	田植えに行ってきました	鎌田 啓夢	・・・9p
		佐々木 睦枝	・・・10p
	新聞記事より (あがいんセットの記事)		・・・11p
	ネパール大地震募金のお願い		・・・12p

## 総会報告

第16回麦の会総会は、5月17日(日)、東部市民センターにて行ない、事業報告、決算、事業計画、予算とも承認されました。

麦の会では寄付金の控除が認められる仮認定NPO法人の認証を3月30日付で受けました。2年後に本認定の申請をすることになります。そのためには引き続き賛助会員の拡大が必要です。

以下、事業報告の抜粋を載せます。これからもご支援をよろしくお願いします。  
なお、仙台建設業協会様から、今年も寄付金をいただきました。ありがとうございます。  
(飯嶋 茂)

## 2014年度事業報告

### 【1】 仮認定NPO法人格の取得

税の優遇措置がとられる認定NPO法人格の取得をめざし、今年度はその前段となる仮認定NPO法人の申請を目指しました。書類の整備が中々整わず遅れていましたが、何とか書類を整備し、10月15日に仙台市へ申請書を提出しました。

その後仙台市が2015年1月16日・19日にコッペに来て現場書類の確認。その際に指摘された点を訂正した書類を2月9日仙台市に提出。はれて2015年3月30日付で、仮認定NPO法人の認証がおりました。仮認定の期間は3年間、2年後の2017年に本認定の申請を行う予定です。実績の判定期間は、2015年度、2016年度の2年間。本認定には、過去2年にわたり100名以上の寄付者・賛助会員がいることが最低条件です。その他にも法令遵守等クリアすべき認定要件は多くあります。

今回の仮認定にあたっては、必要書類をきちんと保管し、なおかつすぐ出せるようにすることを痛感させられました。狭いコッペにとっては場所の確保が頭の痛い問題ですが、できるだけ整理したいと思います。

特に寄付者・賛助会費をいただいた方には、専用の領収証の発行が必要になります。そのコピーを取っておくことが、100名以上の寄付者・賛助会員がいることの根拠書類になります。

もちろん仮認定を受けたからと言って寄附金がそのままで増えるわけではありません。仮認定を受けたということでの社会的信用をPRし、寄附金を募る努力が必要です。

確認のために寄附金控除の仕組みを載せます。

#### 【個人によるご寄附・賛助会費】

- ・所轄税務署で確定申告行って下さい（年末調整等では控除できません）  
確定申告を行うことによって、税金の還付を受けることができます。
- ・確定申告書提出の際には、当団体が発行した寄附金受領証明書を添付して下さい。

(寄附金額－2,000円) × 50% = 減税

所得税 40%、個人住民 10%、合計最大 50%

(例) ご寄附 1万円 (10,000円－2,000円) × 50% = 4,000円 (寄附金控除額)

\* 寄附金控除額には一定の上限があります。算出には税額控除方式と所得控除方式の、どちらか有利な方を選択できます。

#### 【法人によるご寄附・賛助会費】

仮認定特定非営利活動法人への寄附金は、法人税における一般の寄附金の損金算入限度額とは別に、特別損金算入限度額の範囲内で損金算入できます。

- ・寄付した日を含む事業年度の法人税確定申告の際に、申告書に必要事項を記入し、当団体が発行した寄附金受領証明書を添付して下さい。

\* 寄附金控除について詳しくは、もよりの税務署・お住まいの自治体にお問合わせ下

さい。

## 【2】クラウドファンディングへの取り組み

クラウドファンディングサイト READYFOR?「フェアトレード原料でクッキーを作り、障害者の自立へつなげる」プロジェクトを行いました。

クラウドファンディングはインターネット上で資金を調達する手法。自分たちの活動をより多くの人に知ってもらう意味合いもありました。

今回はコッペのホームページをみて運営会社から声がかかりました。設定目標の30万円に対し、実際に支援をしてくれた人は46人、約44万円が集まりました。半分は知り合い、半分は初めての人。もちろんそれ以上の人がサイトを見ているはずなので、コッペの宣伝にもなったと思います。

## 【3】あがいんセット

県内7事業所が連携して商品開発に取り組み、2012年度に誕生した「あがいん-again-セット」ですが、今まで「パッケージ」面の弱さが課題になっていました。今回は、その課題であった「パッケージ」面でのブラッシュアップの支援を創業スクエアから受けました。また、パッケージ以外にも、「あがいん-again-セット」の統一のテーマの弱さの指摘を受け、「宮城」をコンセプトとし、宮城県産の素材（ミヤギシロメや宮城県産米粉、仙台味噌等）を生かす商品開発を行いました。

以前は、各事業所ごとの個装パッケージのまま、箱詰めを行っていましたが、フォーマットを揃えたパッケージに変更することにより、「あがいん-again-」ブランドの統一を図れました。また、コンセプトを「宮城のテーマタイム」をあがいん♪とし、「宮城産」にこだわることで、手土産・ギフトとしての価値を上げることに繋がりました。また、パッケージイラストを多夢多夢舎中山工房さんに協力を仰いだことにより、製造業以外の福祉事業者との連携を図れました。

商品開発後、記者、関係者に向けて、プレリリースを行ないました。これを皮切りに、リーフレット、注文書を作成し、「あがいん-again-セット」の周知を図っています。今後、リーフレット配布や販売会など様々な機会を通し、「あがいん-again-」の存在を知ってもらうことで売り上げを伸ばし、我々の目的の一つである、利用者の工賃向上の達成に繋がればと思います。

## 【4】就労継続支援B型「コッペ」の運営状況

### ① 民間助成金の活用

今年度大きな助成金を二ついただきました。ありがとうございました。

- ・軽ワゴン車の購入 中央競馬馬主社会福祉財団から82万円
- ・オープンの購入 読売光と愛の事業団から150万円

特にオープンは、創業以来 25 年以上使い続けてきたものの買い替えでした。コッペは他にも古くなってきている設備・車があります。今後も民間の助成団体に応募しながら対応したいと思います。

## ② 開設状況

開設日数は、259 日／年、利用者延べ数は、3,294 人となっています。ほぼ昨年と同様です。コッペの定員としては、20 名。在籍は 16 名です。それを支えるスタッフは、常勤 4 名、パート 6 名です。それにコッペショップを支えるメンバーの方々、区役所販売等を手伝っていただけるボランティアの方々等に、コッペの運営に協力して頂きました。土日のイベント販売時には障害メンバーも参加してもらえるとありがたいです。

## ③ 売り上げ

パンとクッキーの売り上げは、約 2,180 万／年（仕入れ販売約 200 万を含む）、月平均 182 万となっています。2013 年度の売り上げに比べ 80 万／年ダウンしました。注文の多い月と少ない月の差も大きく、それに対して有効な対策が打てていないのが現状です。働いているメンバーの技術水準は着実に上がっていて、生産能力はあがっています。その分、注文が少ない月は、みんなに回す作業がたりなくなってしまうのが現状です。

## ④ 訓練等給付費収入

2014 年度は 2,180 万円ほどとなりました。前年度よりやや上がったぐらいです。これまで、売り上げの方が公的助成金より多かったのですが、2014 年度はほぼ同じになりました。

## ⑤ 工賃

障害メンバーの給料は、最高で 77,000 円最低 40,000 円、平均約 52,000 円となっています。

昨年よりも若干あがっています。

## ⑥ コッペショップ

パンに関しては売上の中でもショップが重要な位置をしめています。春・秋のセールその他、バレンタイン・ホワイトデーセール等も行いました。

飲食店営業（調理パンに限る）の許可も取ったのですが、惣菜パンの製造は行えませんでした。

## ⑦ ホームページの作成

ホームページは、以前に比べれば、問い合わせも多くなっています。ツイッターは、イベントの告知に使用したぐらいです。フェイスブックも開設していますが、こちらもイベントの告知で主に活用しています。

## ⑧ 放射能検査

みんなの放射能測定室でとととに検査に出しました。検出限界は 10 ベクレルでいずれも不検出となっています。今後も定期的に検査に出し、安全性を確かめます。原発に対しては、食品の安全という面でも反対の運動に協力していきます。

## ⑨ レクレーション

一泊旅行 7月11日(金)・12日(土) ハイルザーム栗駒

9月20日(土) NPO法人桑の木との合同バーベキュー会

6月22日(日)・12月14日 いちえさん食事会

## ⑩ 亮師くん安らかに

昨年12月27日、突然のことでした。おなかの痛みで大学病院に運ばれた亮師さんは、そのまま帰らぬ人となりました。

年末のあわただしい中で、皆さんにも出席いただきお別れ会をしましたが、あらためて亮師さんの「しのぶ会」を2月11日に行いました。当日は、なつかしい顔ぶれを含め、50人ほどの人が参加し、美味しい食事をいただきながら、亮師さんの思い出話をみなさんとたくさん、そしてにぎやかにすることができたと思います。

亮師君がコッペに残してくれた足跡を大切にしながら、コッペを続けてきたいと思います。

### 【5】雇用関係について

現在のコッペの収支では、全員と雇用関係を結ぶことは難しいため、就労継続支援B型のままで、出来る人から雇用を結ぼうという方向で今年も進めました。条件を改めて確認します。以下の満たす人で、希望する人と雇用関係を結んでいます。

- ① 8年目以上
- ② 20時間以上の勤務時間
- ③ 最低賃金の減額申請はする
- ④ 社会保険はかけない
- ⑤ 中退金は6000円でかける

### 【6】理事会

計9回行いました。コッペでは、みんなで運営を考えていこうというスタンスで、理事会には都合がつく限りみんなに参加してもらっています。しかし、最近参加する人が限られてきています。もちろん強制はできませんし、仕方がないことなのかなとも思いますが、麦の会は大きな組織ではありません。色々な人に支えられているということが、組織を維持していくための大きなモチベーションです。理事会に

出席するというのもその一つです。出来るだけ多くの人の参加をお願いします。

#### 【7】会員（3/31 現在）

正会員 21名 賛助会員 124名 計 144名 （正会員 1名減、賛助会員 4名増）

安定して条件をクリアするためにはさらに会員の増加が必要です。会員皆さんの声掛けを改めてお願いします。

なお、サポーター会員 40名（増減なし）です。

#### 【8】社会教育の推進

会報「麦の穂」の発行 計 4回 それぞれ 170部前後

2014年 6月 8月 12月 2015年 1月

賛助会員の確保のためにも会報は大切です。しっかり定期的に発行したいと思います。

#### 【9】生活支援・計画相談

現在福祉サービスの利用にあたっては、計画相談の作成が義務付けられています。作成には相談支援事業所の相談員があたります。日中の活動だけではなく、余暇をそう過ごすのか、住まいをどうするのかといった、その人を色々な制度・事業所を活用してトータルで支援しようというのが制度の趣旨です。

コッペだけでは月～金曜日の昼間の支援ということになります。生活支援についても考えたいとの声を受け、まずは、コッペの中でヘルパーを利用している人のお話を聞くことから始めましたが、コッペだけでは具体的なことはできませんでした。しかし、計画相談で相談支援事業所が入ると移動支援のヘルパーを利用している人は増えました。今後うまく活用して行ければと思います。

#### 【10】NPO法人共同連・東北ブロック結成について

11月9日(日)、山形・宮城の共同連に関心のある事業所に呼びかけて、共同連東北交流会を行った。13団体と個人1名が参加し、その場で東北ブロックの結成を確認した。東北と言ってもまだ宮城と山形だけであるが、今後、交流を重ねていきたい。

#### 【11】NPO法人フルハウスとの連携

コッペの直接の運営母体は麦の会であるが、障害者総合支援法上は、NPO法人フルハウスが運営する形になっており、訓練等給付もフルハウスを通じて入ってくる仕組みとなっています。

当然のことながら、NPO法人フルハウスを構成するフリースペースソレイユとフルハウスグループの一員として、フルハウスの会議・ソレイユ祭りへの参加、互いの商品の販売等の協力をしています。

以下 略

## 奏海の杜の皆さま ありがとうございます

静岡県 伊豆つくし会 土屋 潤

静岡県作業所連合会を通じて、飯島様と連絡を取らせて頂き、被災地障がい者センター南三陸を前身とする『NPO法人 奏海の杜』さんにボランティアとして受け入れていただきました。

職場からは半年の休職期間を得まして、去年の9月から今年の2月7日までお世話になりました。

行くからには、1日でも長く、移住ということも視野に入れる覚悟で臨みました。そうでなければ誰に対しても失礼であり、半年（実際の期間は5ヶ月でしたが）でさえ一瞬で終わるという思いでした。

現地は嵩上げ工事の真っ只中で、奏海の杜での送迎中にスタッフの方から『ここに家があった』なんて言われても分からないよね』と言われ何と返答して良いかわかりませんでした。私には想像する事が唯一できる精一杯のことでした。もっと早く来ることは出来なかったものかと後悔の念も溢れました。

放課後の、時には1時間にも満たない時間を出来るだけ濃密に過ごす事は、私の持ち合わせでは足りることはなく、スタッフの皆様が築き上げたものと共に、利用者の方々から心を開いて頂けたことが何よりであったと思います。職場である入所施設では毎日会うのが当然となりますが、ここでは週に一回の利用という方もおりましたので、一人ひとりと会う・関わるということが貴重な時間であることを再確認できました。

スタッフの皆様からは見習う点ばかりでした。一人ひとりを喜ばせよう・楽しま

せようとする姿勢、ひとりの利用者について複数の側面から鑑み情報を精査し、より良いサービスを提供しようとする事、福祉という視点・枠にとらわれることの無い『奏海の杜』の方位磁針／羅針盤を持っている事等々がありました。当たり前且つ基本的・礎となることなのですが、それだからこそ忘れてしまったり曖昧になってしまいがちな事が確実に理念として沁み渡っていました。それらを出来る限りを吸収する事に集中すると同時に、確実にいつでもアウトプットできるように努めました。

僅かな期間でも、“ボランティア”ではなく、“スタッフ”の一員として存在できていたとしたら、それが自分自身における成果と呼べるのだと思います。

さまざまな研修にも参加させて頂く機会も頂き知識・経験共に積む事が出来ました。中でも、私自身が“きょうだい”と言う理由もあつて、県東部の自立支援協議会主催の「きょうだい支援プロジェクト」の研修にも快く参加をさせて頂きました。これを機に私の地元でもきょうだい支援の充実を図りたいという思いが強くなりました。私の地域においては未開拓の領域と言って良い状態ですので、そこを切り開けていければと思います。

今後も“本当のスタッフ”になり奏海の杜さんと成長を共にしていきたいという意志は強いのですが、以上の点に重ねて、今回の繋がりをより強固なものに、そしてより広く伝播することも重要だと考え、当初に決めた期間通りに戻ることになりました。

自らの中で成長を実感でき、現在やるべきことに確実に焦点を当て、将来やりたい事に光を照らせる期間となりました。奏海の杜の皆様並びに関係各所の皆様、誠にありがとうございました。

田植えしました。

鎌田啓夢

5月9日 富谷町に飯嶋さんと佐々木さんと僕の3人でいきました。

緑色の苗を田んぼに植えました。

長ぐつがどろだらけになりました。

たけのこ堀りもしました。初めて掘ったので楽しかったです。

長ぐつがぬけなくなる 小川さんのお供さんに引っかけてもらいました。秋の収穫が楽しみです。





# お田植え記

佐々木 睦枝

5月9日（土）あかるい曇天～念願のお田植えが、コッペで働くH君&T君の恩師、相沢さんの田んぼでかなえられました。麦の会公認行事なのに、コッペからむかうのは有志3名。ドロドロ、汗だく、紫外線・・・みんな、未知の世界におびえているのですね。でも、心強い助っ人！かつて一緒に働いていた地元富谷のOさんが息子S君&R君を連れてかけつけてくれました。

やり方：約1ヵ月、10cmに育った「ひとめぼれ」の早苗を2～3本ずつ、あらかじめ印をつけてもらった所に押し込むようにして植えていく。

Iさん・K君は長靴で、Oさん&子供達は裸足でどンドン田んぼにはいって行く。うわ！何だろう、この感覚・・・固まりかけたお餅にはいつているかのような、不思議な感じ。ふくらはぎまで約20cmが田の中でガッチリと動かない。自由に動かせるひざから上を使って、手を伸ばせる印のところに早苗を植えていく。足をズボッと抜き出して、やや前へ移動。植えては移動の繰り返し。子供達は早々にやり尽くし（満足したのだ）、カエルや虫の姿に大喜びしている。すぐ前の富谷中から響いてくるブラスバンド部の練習音「ブブー、ブブー」とカエルの鳴き声をBGMにして、1時間と少しかけて、畳にすれば20畳分位（だったと思う）の田植えを無事に終えられた。

相沢さんご夫妻から聞いたお話：相沢家の田んぼは、しっかり稲が根をはるようにと先代が深く耕している。（だから、ヤワな長ぐつは役に立たない。）雑草が増えれば虫も付きやすくなるが、除草剤は使いたくない。草取りは大変だが、田の中をかき混ぜることもなるので、稲の生育を助ける大切な作業。順調に育てば、9月の連休の頃、収穫できるのではないかな。

その後、相沢家の竹林で筍を掘らせてもらい、お土産に沢山頂いた。大亀山森林公園の展望台へ昇り（おすすめスポットです！）、おにぎりを食べ、帰途についた。掘りたての筍は柔らかく、えぐ味もなくて、ゆでたてをもりもり食べてしまった。

何もかもおまかせの、準備してもらっての、いい所だけどりのお田植え体験、とても楽しかったです。相沢さんご夫妻、本当にありがとうございました。私達が植えた稲はちゃんと育っているのでしょうか？コッペの皆さん、是非次の機会には大勢で行きましょーう！というわけで、ご参考までに・・・

お田植え持ち物：長ぐつ（ひざ丈のしっかりしたもの）、炊事用ゴム手袋、  
タオル、帽子、おにぎり、着替え（心配な人）

もちろん、はたしと兼手O.K.です！

# 障害者作業所10か所 共同製造

# 仙台圏

東北総局  
〒980-0021  
仙台市青葉区中央  
2-3-6

販売仙台ビル内  
電話 022-222-4121  
Fax 222-8386  
メールはtohoku@yomiuri.comへ

石巻支局  
〒986-0821  
石巻市住吉町2-6-23  
アソシエ21 102号  
電話 0225-96-9601  
Fax 96-9602

大崎支局  
〒989-6117  
大崎市古川旭6-4-12  
オフィス佐藤2-b  
電話 0229-22-1077  
Fax 22-0049

一通信部  
気仙沼0226-22-6980  
白石0224-25-2296

購読、配達は  
仙台小田原262-2305  
泉仙台251-6025  
中央 223-2362  
長町 248-1318  
泉 351-7727  
泉 96-9512  
362-8001  
泉 361-3833

川沼沼石取  
21-0151  
22-0953  
22-2532  
22-5323  
382-3068

販売事務は  
仙台022-262-5807

広告  
仙台022-266-1562

折り込み広告  
仙台022-387-3300

旅は読売旅行で  
仙台022-222-5811

あがいんの開発に取り組んだのは、仙台市宮城野区でクッキー製造などを行う障害者作業所を運営するNPO法人「麦の会」代表理事の飯嶋茂さん(51)ら。交流があるほかの作業所と協力し、3年ほど前から、各作業所で作った焼き菓子の詰め合わせを販売している。

しかし、従来の商品は簡素な包装を施しただけで、「見栄えが良くない」と評判は芳しくなく、売れ行きも不調だった。「贈り物と

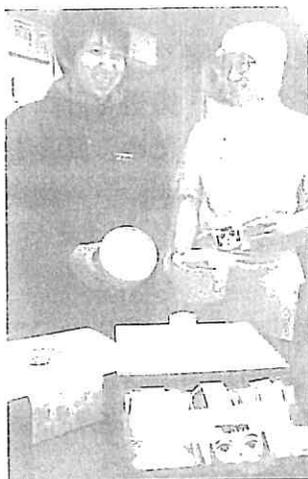
# 焼き菓子セット 刷新

県内10か所の障害者作業所が共同で製造している焼き菓子セットが、仙台産みや大豆など、県産素材にこだわりの「包装も新たにした「あがいん」として生まれ変わった。関係者は「障害者が作ったから」ではなく、味や見た目で勝負できる新商品としてPRに力を入れた」と、意気込んでいる。

## 県産素材と見栄え重視

して通用する商品を作りた」と考える中で、仙台市などで作る起業支援拠点「創業スクエア」(仙台市若林区)を知り、商品の魅力アップに向けた無料相談などのサポートを受けること

相談を通じて、これまで一部の菓子でしか使っていなかった県産素材を全ての商品に用いて、商品の特徴として押し出すことを決定。仙台産みや県産の大



焼き菓子セット「あがいん」をPRする飯嶋茂さん(右)と山下さん(仙台市宮城野区の「コッペ」で)

豆、米粉、桑茶などをふんだんに使うことにした。また、紹介を受けたプロのデザイナーや各作業所のメンバーの意見などを基に、包装紙はティーカップやおけしなど宮城の名物をあしらったものにするなど、見た目にもこだわった。

焼き菓子セットの商品名は、メンバーで話し合っただけで決めた「あがいん」だ。地元の方言で「おしながれ」を意味する「あがいん」と英語の「アゲイン」から名付け、再び食べたくなる菓子にしたいとの願いも込められた。商品のキヤッチコピーは「宮城のほっこりティータイムをめしあがれ」だという。

おからのクッキーを作る「すまいる作業所」(仙台市泉区)の指導員・山下由比さん(34)は「イラストがかわいらしく、菓子を詰めるスタッフの表情も明るくなった」と話す。

クッキーなどの焼き菓子9種とジャムを詰めた「ボックスセット」(税込み3000円)と、焼き菓子6種を丸い箱に収めた「丸形セット」(同1200円)の2種類を用意し、3月7日に「あがいん」として発売。3月末までに140セットが売れ、1か月の販売目標(100セット)を上回ったという。

注文は、麦の会が運営するパン屋「コッペ」で、平日の午前9時〜午後5時に電話(022-2999-1279)で受け付けている。申し込みから商品の引き渡しまで1週間程度かかるという。

4/19 読売

## 募金の呼びかけ

2015年4月25日に発生した地震によりネパールには甚大な被害が出ています。ネパールでは、ダスキン障害者リーダー育成事業で日本の自立生活運動を学んだ障害者リーダーが2箇所（カドマンズ・ポカラ）の自立生活センターを設立、活動しています。

上記2箇所のCILと連携して今後、救援活動を行っていきます。

早速、ネパールのCILからは「今後、車いすのニーズがたくさん上がってくる」との連絡もきています。5月下旬に第一次支援として、支援金と支援物資の輸送、ネパールへの車いすの輸送方法の調整、現地ニーズ調査を計画中です。

救援物資を日本から直接送付するのは時間とコストがかかるため近隣国（パキスタンなど）経由での物資の調達・搬送を計画しています。

そこで最優先課題として救援活動のための資金を募りたいと思います。

ぜひ皆様のご協力をお願いいたします。（\*物資の受付は現在行っておりません）

### ■ネパール被災障害者救援基金受付口座についてのご案内

東北関東大震災救援本部は、2014年度末で活動を終了することとなっていますが基金の専用口座の開設手続きにはたいへん時間がかかるため、今回、救援本部の口座で「使途限定」で受け入れいたします。

#### （1）郵便振込の場合は

口座番号：00140-7-429771

口座名義：東北関東大震災障害者救援プロジェクト

\*通信欄に「ネパール被災障害者救援基金」とお書きください。

#### （2）銀行振込の場合は

ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキュー）支店

口座番号：(当) 0429771

口座名義：東北関東大震災障害者救援プロジェクト

\*お振込みの際は、「ネパール被災障害者救援基金」へのお振込みであることを全国自立生活センター協議会までご一報ください。

全国自立生活センター協議会 代表 平下 耕三

〒192-0046 東京都八王子市明神 4-11-11 F

TEL 042-660-7747 FAX 042-660-7746